

各種ライフライン敷設に活用される アルティミット工法

キーワード

大口径管推進工法, 長距離, 急曲線, 滑材, 推進力伝達材, 適用分野拡大



1. はじめに

アルティミット工法は、長距離推進・曲線推進をより確実に施工できる推進システムとして、平成4年(1992年)に第1号工事を実施して以来、平成25年9月現在で大口径管の累計推進延長が220kmを超えました。本工法は、60年を超える推進工法の歴史の中で培われてきた様々な技術(システム)を集大成したものであり、適用分野も下水道管路だけでなく、様々なライフライン敷設にご採用いただいております。

本稿では、アルティミット工法の施工実績の傾向、工法の根幹となるシステムの概要、特徴的な条件のもとでの施工事例等をご紹介します。

2. アルティミット工法の施工実績

2-1 施工延長の推移

推進工法は、日本の下水道整備とともに発展してきました。アルティミット工法の第1号工事を実施した平成4年度末の下水道普及率は47%でしたが、平成23年度末では75.8%と飛躍的に向上しています。図-1には、アルティミット工法の年度別推進延長と累計推進延長を示しています。推進工法全般にいえることですが普及率の向上にともない単年度の推進延長は年々減少する傾向にあります。

ただし、呼び径別では、800~1800(図-2)の減少に対して、2000以上(図-3)の比較的口径の大き

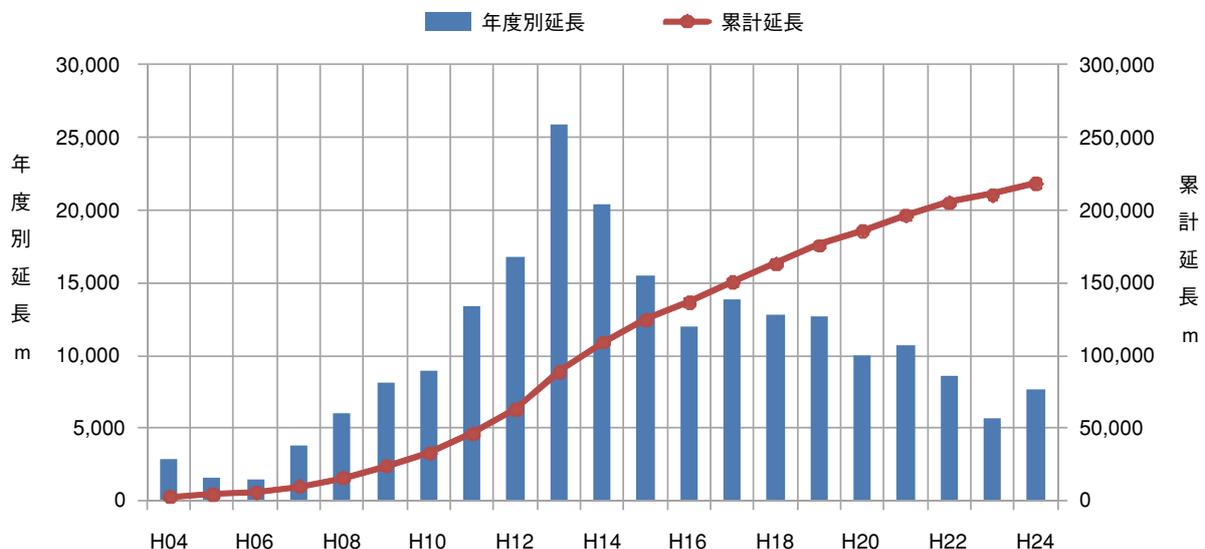


図-1 年度別推進延長と累積推進延長